高野直全傳小夜衣物語

207
869

国立国会図書館　　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

207
869

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

高師直全傳

小夜衣物語

十返舍一九著

歌川國貞画

全二冊

高武藏守師直足利家の執事にして威權秀旭のぬく陶朱の富貴に誇り鄭白の衣食に飽野性獸心を懷き塩谷が妻内侍の羅質美貌なるに慈悲して史を始て寃屈の難に誅し竟に積惡其身を屠るの物語を太平記に需て換述を

英盛堂訂本

妙吉侍者

夢相国師之法券能修せるに咤祇尼天の法を以て萬頃朱鉞せしと云夏

尸鬼神

武將

左云衛督

直義公歸依しおひ一条堀川に寺を建居基せしむ

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

太平記 嘯 高師直實傳 小夜衣緒言

其比貞和年間四海瓦の如く裂乱して王道廢れ武臣左馬頭源等氏郷弓箭の長者と成て海内衛護の重任を主るといへども執權高師直師泰兄弟諸士の上に跋扈して己が威權に滿じ諸臣に親疎あれば神明三宝の冥鑒にも背き天下英賤の人望にも違ひ家非をはたらぎ人を謗り謾り恣に我意の行跡をなしかれば高美一人の私より諸人其氣に移り各怨心熾盛にして君臣父子の道をも弁へず只人の財を家有にせんと計るの人心なれば矯餝らずといふとなく非をもつて理を蔽ふが故に企る所未幾せず偶果報の儀深不仍て世をこう国を持者ありといへども真実の義におらず運長久にいたることなし然るに師直兄弟ハ宿因のいたすところにや光榮日毎に陪して門前に車馬たちつらなり堂上に賓客群集し諂諛阿順の音物諸国の名産佳肴珎物山のごとく飽こそり師直奢侈にかこりて淫怨深く伯州塩谷判官の妻に懸相し恋慕の情やこがたくさなぐの術を尽すといへども志操逞一にして師直のこころに任せず師直いよ〳〵懐念ましまず連にその丈判友を始こて終に讒言を構へ無実の罪に討屠る志ましども義をどるく師直その仇に復して汚名を世挙に流すことを仮名手本と表題せし音曲の歴本に假借して戯場狂言に翫ぶハ意味あれ遺格せり因て今太平記の稜書を模写し全部六冊に縮畧し其実を傳へんとするハ悪種を蒔とれハ禍を生し善縁をなすこれハ祥を得るの理を述て黄口の児童をこちひくの善種となすものなるし

文政己孟月

十返舎一九誌

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

以短才庸愚
汚大任重職
是乱世根本

後光明天王慈恵

偏因
敖慾器
高武藏守師直

天性の罪質
小して一回
笑る眸ゆへ
金谷千
樹の花叢
と耻て四方の
山風に誘引風に看る容貌ハ
銀漢万里の月狀を始えて
五更の夢に
沈何べし
其ふるさ
かたくのうちに
つゝまれて
風に白くあれ
其のおもしろ

塩谷之妻
西之臺内侍

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

高師直暴逆濁乱の為に冤屈の難に遭て竟に命を墜せ
さしも是まで勇壮忠戦を尽し
外なりして
一朝に
讒言せらるゝ一百年の
寿を
夭せ
口い晋の石季倫ら緑珠ら故に
亡されて金谷の花と散えてしまさも
塩谷剣宦
高貞

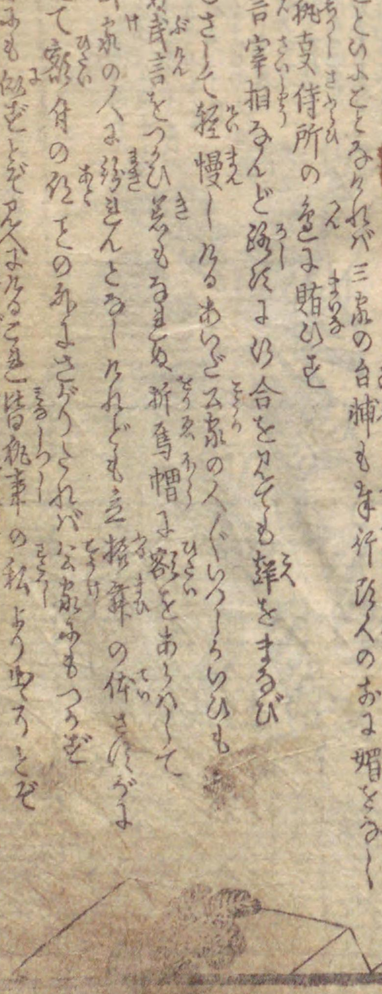
妙吉侍者
怨怪

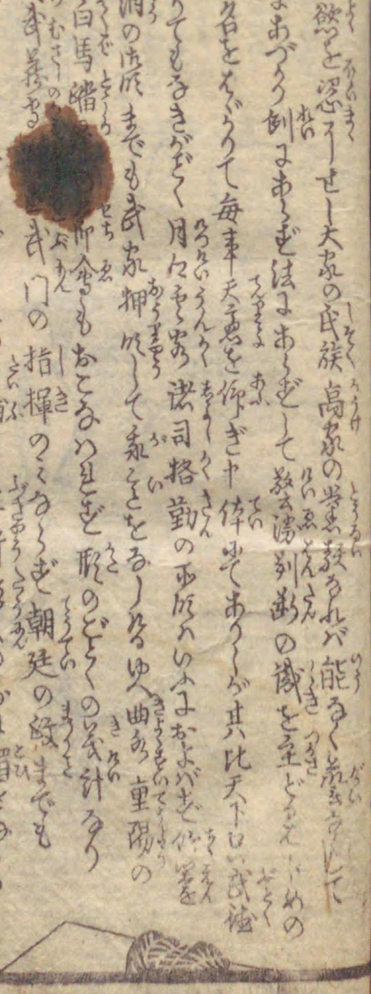
頑公一にして志の分れ
ざるかの私怨を全くと
いへり妙吉侍者性
強欲の為に命を
おとせ人を利する
者天必これに福ひし
人を賊ふ者ハ天必
其に禍せしふ侍者
怨恨をひきて所直の
積悪に殺ふ輪已
業因のいたせ
ところなるべし

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869
ガラス使用

暫ありて本の四夷八蛮ども王化を助て大軍同時によおとろ〳〵べ
今はや聖運啓けめでたくなるよ現身の験あらたに敵国降人
負ごとり赤流矢の当よ命を限り一剣奥州下向の途中
渡海の難風よ放されて行方あらざりと関へくべ世間さてとや
あはひなく結構入たの息大の義お捕も父の遺言を忘月きて
降人よりぬ其方ら傍入たも主の守護なく入たのみなく
かく青丸を取ぬ立て居利よ
主従の礼儀を乱亡已が威
勢を汲ごとくせ時新田の
子孫おわりて栄えんとそこ
もり行ごとの連枝
いくらも猛虎の
牙もれば涙眼
もつて只時
の変有んことを

時を待てぶらぶらおいくゆくあると
拙よ公務里宅もの煩を激ごとくなる
むら〳〵百歩の威をふるひ悪公をくじる月の
侍ごとり天下の危うき時どもよの義をも





若ごと後を心ぬ欲ごと思ず一せし大衆の氏族高家の堂
礼階不次の賞よあづり剣よあるごとし教滞別勅の儀を主どるごとくに
ごとそ朝敵の名をそうして毎事天意を仰ぎ中伸
ず帰して公家ありてもるきがごとく月々家司格勤の亜欧人のおよおよがごとくに
叛房摂裏仙洞の庶務まごも武家押ぐして条ごとく
宜ごもうえ大臣白馬節
会ごもおこなわれ左右
衛門の督高家兼ね
帥命ごもおこなわれ左右
衛門の指揮のごとく
ごとくに朝廷の政まごも
ごとくに曲あり重陽の
節会ごもおこなわれ三献の白酒もまた
五門の曲阜も称美侍所の名ごと賄ひを
されば納言宰相よんど設よりの合をそ
指をさして軽慢ごるあらざる
うらめ武言をつひごもる
武将の人よ終まんとごとく
武家の人よ終まんとごとく
ごとくに朝廷の政まごも
ごとくに曲あり重陽の
節会ごもおこなわれ三献の白酒もまた
五門の曲阜も称美侍所の名ごと賄ひを
されば納言宰相よんど設よりの合をそ
指をさして軽慢ごるあらざる
うらめ武言をつひごもる
武将の人よ終まんとごとく
武家の人よ終まんとごとく
ごとくに朝廷の政まごも
ごとくに曲あり重陽の
節会ごもおこなわれ三献の白酒もまた
五門の曲阜も称美侍所の名ごと賄ひを
されば納言宰相よんど設よりの合をそ
指をさして軽慢ごるあらざる
うらめ武言をつひごもる
武将の人よ終まんとごとく
武家の人よ終まんとごとく

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869
ガラス使用

国立国会図書館　　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

国立国会図書館　　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

国立国会図書館　　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

国立国会図書館　　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

国立国会図書館　　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

新撰藏版目録

伊呂吉由縁藤澤 全六冊 種彦作 國貞画

絵名手本團扇張筒 全三冊 南山領作 春亭画

善光寺由来記 全二冊 五蘭作 春亭画

鼻下長生男 全二冊 一九作 春亭画

高師直實傳 小夜衣 全六冊 一九作 国貞画

續膝栗毛十一編 十返舍一九作 全二冊

滑稽 堀之内詣 同作 全二冊

堀内詣後編 ざしぶや記行 同作 全二冊

狂歌 さとし俵 全

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

高師直傳記

小夜衣

全六冊　合本二巻

十返舎一九著

歌川國貞畫

英盛堂訂本

長嶋町五丁目
大野屋惣八

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

唐土よ
王昭君越
呉國へ
赴く事
塩谷の妻
の思ひ相
似たり

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

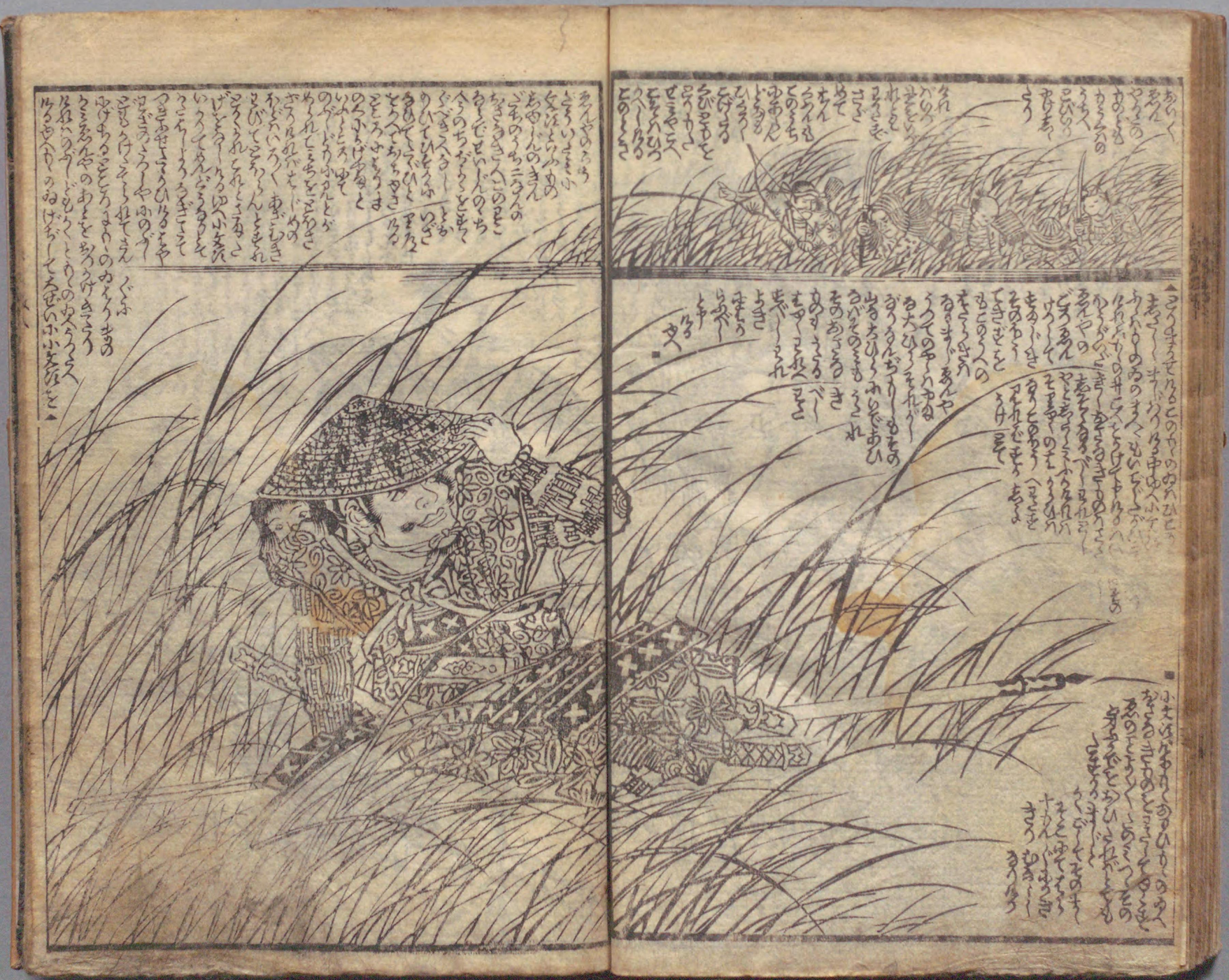
ガラス使用

国立国会図書館　　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

国立国会図書館　　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用



国立国会図書館　　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

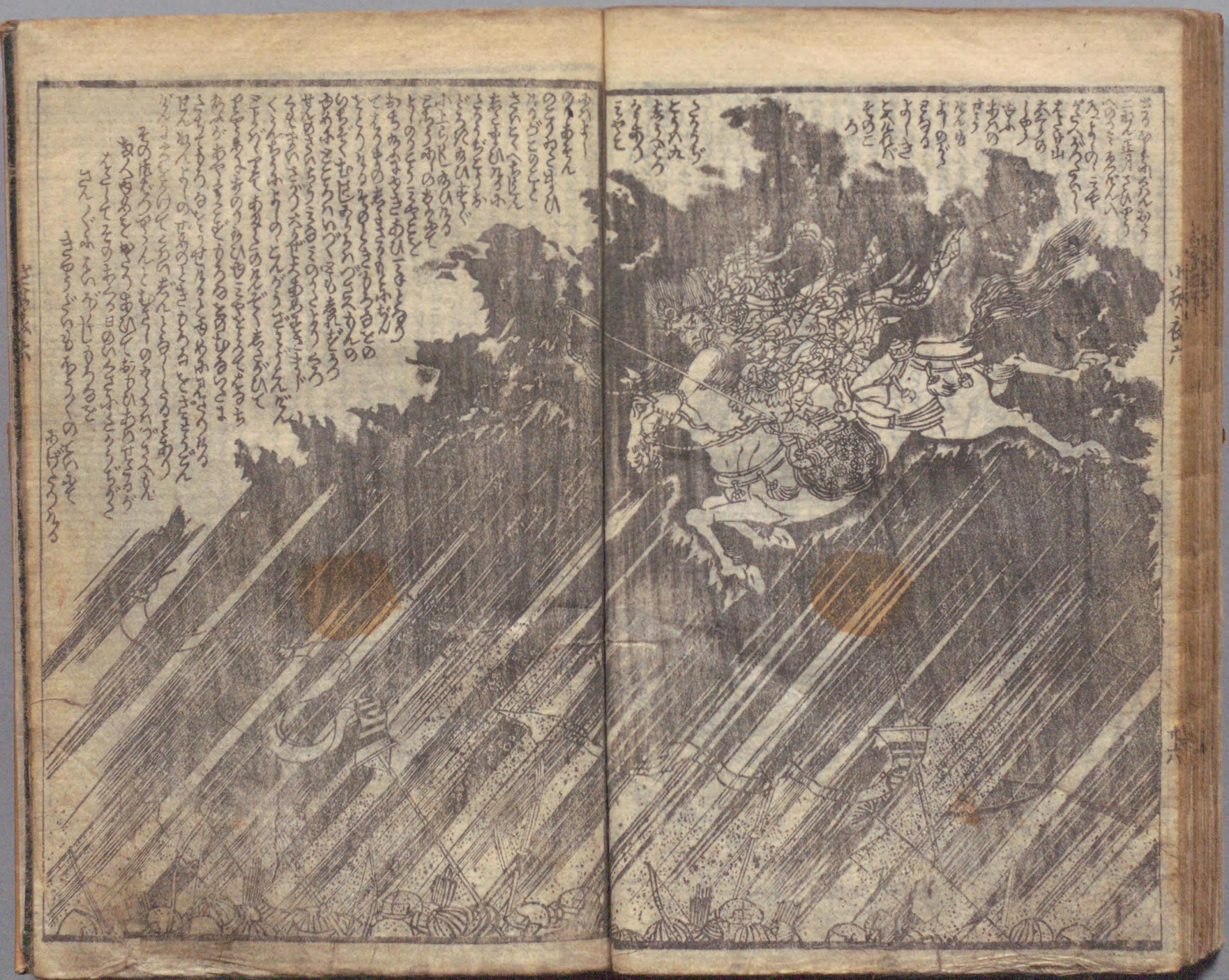
ガラス使用

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用



国立国会図書館　　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

国立国会図書館　　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

207
869

十返舎一九著

滑稽垣之内詣　全二冊

後編雜司ヶ谷記行　同二冊

手紙自在　十返舎一九著　全一冊

假名大意抄　春海大人著　全一冊

袖珍名鑑　江戸町中組合名主方名お町役所付ふめしく記してあることなし　両面一枚ぎり　出来

泰平武鑑　毎月改　全一冊　諸大名方并御役人付

鎌倉武鑑　新刻　全二冊　鎌倉時代諸士氏系武功を記す

二編　初代ゆきなりたちとなるを　追々副編出来　全二冊

真行　童子千字文　全一冊

懐寶古状揃　全一冊

子供早學問　全一冊

其外小本類　品々

本繪ざうし錦絵数ふく

新板追々

江戸深川佐賀町

書物地本　問屋　伊藤与

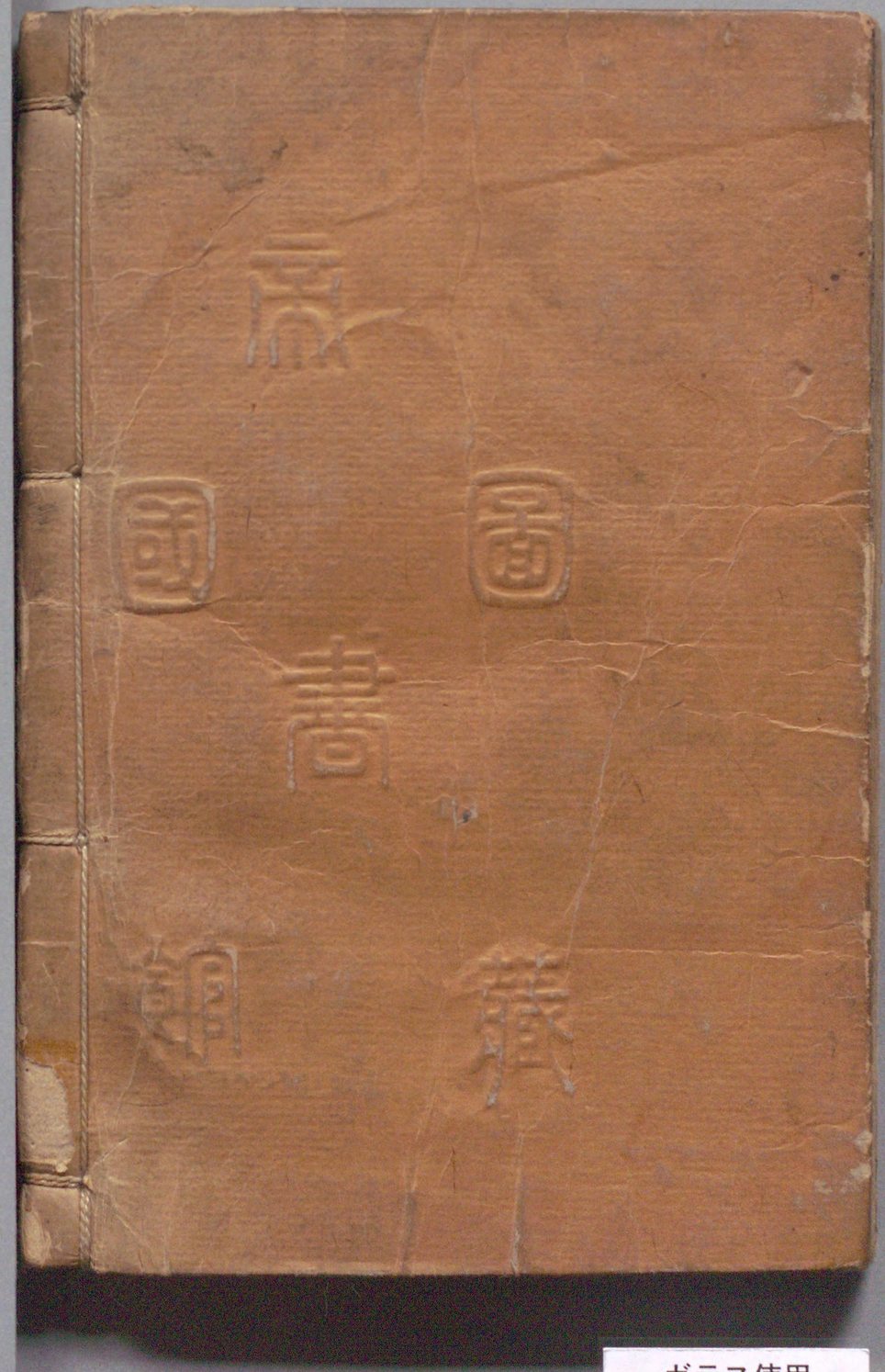
国立国会図書館　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用

207
869

国立国会図書館　　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用



国立国会図書館　　小夜衣物語 6巻 207-869

ガラス使用